

事例4: アフラック・ハートフル・サービス株式会社様 「指導員の思考力を高め業務の効率化を図る」

事例4: アフラック・ハートフル・サービス株式会社様(アメリカンファミリー生命保険会社(アフラック)特例子会社)

- ▶ 2015年11月7日、アフラック・ハートフル・サービス株式会社様(以下、AHS)にて「指導員向け『ビジネス思考力研修』」を開催
- ▶ AHSでは、知的障がい者を中心に障がい者雇用を推進しており、障がい者社員(チャレンジ社員)ごとに指導員を配置、また指導員全員が障害者職業生活相談員の資格を取得し、サポート力の向上に努めている
- ▶ これまでは上記指導員制度を中心とした定着支援に努めてきたが、今後は更なる業務推進力向上のために、指導員全員を対象とした本研修を開催した

課題意識

- ▶ 特例子会社としての性質上、これまでは障がい者のサポートやケアなどの教育訓練の機会を充実させてきた
- ▶ また、指導員の採用にあたっては、大学で福祉学などを専攻してきた方、また福祉施設などからの中途採用が中心であったため、ビジネスを推進するための基本的な「思考力」に関しては、個々人の努力によるものが大きかった
- ▶ 今後、AHSを更に推進するためにも指導員一人ひとりが自ら考え、更なる主体性を求められることから、その基礎となる「思考力」強化に特化したプログラムを開催した

アプローチ

- ▶ これまで「ロジカルシンキング」や「論理的思考力」といった教育の機会を得ることが少ない方々が対象であったため、以下三点を研修の狙いとして、ミニケース・演習を中心としたプログラム構成とした
 - ① ビジネスにおける『正解のない』問題に対して、自分の頭で具体的 / 実行可能な『答え』を出す心構えを持つ
 - ② 『答え』を出すにあたって必要な知識・スキルを理解する
 - ③ 「翌日から、使ってみたくなる」マインドに変化する

❖ POINT !

- ① 「福祉の視点」に加え「ビジネスの視点」も取り入れ、業務を捉え直すための「思考力」の向上を目指した
- ② ミニケースや演習を中心としたプログラム構成により、改めて「思考」することの利点と改善点を見出した
- ③ 日常業務だけではなくプライベートにも関連して考えることにより継続的に学ぶためのフレームを学習した



『指導員向け「ビジネス思考力」』プログラム

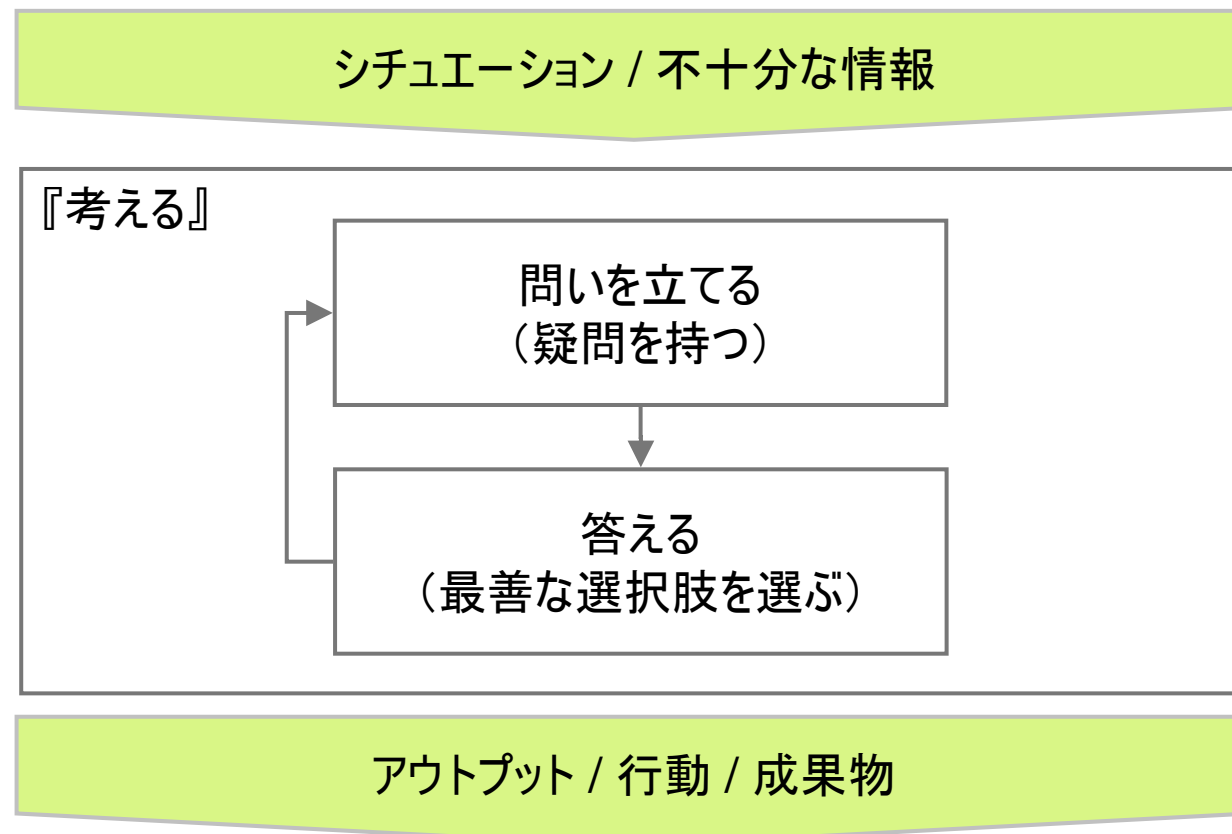
- 「正解のない問い」に対して、自分なりに答えを出し続けていくための「心構え / スキル」について確認する
- 「考えているようで考えていないこと」に気づき、「考えられるようになるために実践すべきこと」を学ぶ

DAY1	
AM	<ul style="list-style-type: none">■ インタロダクション<ul style="list-style-type: none">- 本日の目的、講師紹介・自己紹介- スタートアップワーク ~ 自分の頭で考える人 / 考えない人■ ビジネスにおける『考える力』とは？<ul style="list-style-type: none">- 考えていないことで、起きてしまっていること- 「考えているようで、考えていない」ことは？- 思考停止のワナ（セルフチェック）■ 「考える」前に「気づく」(講義&演習)<ul style="list-style-type: none">- この人は、次は何を言うか？（発散⇔収束）- この人は、なぜ怒っているのでしょうか？（発散⇔収束）
PM	<ul style="list-style-type: none">■ 自分の頭で考える / “問い”を立てる（講義&演習）<ul style="list-style-type: none">- 原因追究力 / なぜそれが起こったのか？- 意味抽出力 / それはどういうことか？- 想像力 / どうすればいいのか？- 仮説構築力 / どのような場面で活用していけるか？■ 仕事の中で、「考える力」を発揮する<ul style="list-style-type: none">- 仕事の中で活かす「考える力」- 「考える力」を駆使して、「G-PDCA」サイクルを回す- サイクルを回すために必要なPoint■ 振り返り&まとめ<ul style="list-style-type: none">- 本日学んだこと、今後に向けて- Q&A、まとめ

※本プログラムは、当社のグループ会社である株式会社ファーストキャリア(<http://www.firstcareer.co.jp/>)のコンテンツをもとに実施されています

本プログラムにおける『考える』ことの捉え方

- 研修では、シチュエーション/不十分な情報が与えられた際においても、適切に考え、アウトプットすることができる“考える力”を養う
- 考えるとは、「問いを立てる」→「答える」の繰り返しであることを理解するだけでなく、効果的に「問いを立てる」ための4つの力と「答える」ためのテクニックについて、演習を通じ実践的に学ぶ



※本プログラムは、当社のグループ会社である株式会社ファーストキャリア (<http://www.firstcareer.co.jp/>) のコンテンツをもとに実施されています

アンケート結果(評点結果/フリーコメント)

■ 評点結果

※受講者17名、1～5までの5段階評価、1が最も評価が低く、5が最も評価が高い

設問	結果(平均※)
1. 本研修の有益度はいかがでしたか	4.94
2. 本研修の理解度はいかがでしたか	4.59
3. 講師の講義やフィードバックはわかりやすかったですか	5.00
4. テキスト・ワークシート類は適切でしたか	4.76

■ フリーコメント結果(抜粋)

- 1日の研修でしたが時間が短く感じるとても充実した内容でした。演習の中で実体験として自分の思考のクセを体感することが出来ました。
- 自分の考え方のクセが明確になった。仕事で活かせることが多かった。
- 「考える」コツが知れた。職場の方とも意見交換ができたこと。
- 仕事、プライベートにおいて必要な「考え方」「問題解決の方法」を学ぶことができたから
- 新しい視点、気付かされたことが多かった。最近もやっとして話す場がなかったので、そんな話も会社の仲間とできてよかった。
- いろいろなビジネス本などにも書かれており、知っていることも実際に考えてみることで大きな違いを感じました。
- 知識として知るだけではなく、ワークを通して実際に体験・経験することができた為。

本研修の評価と今後の方向性

本研修の目的

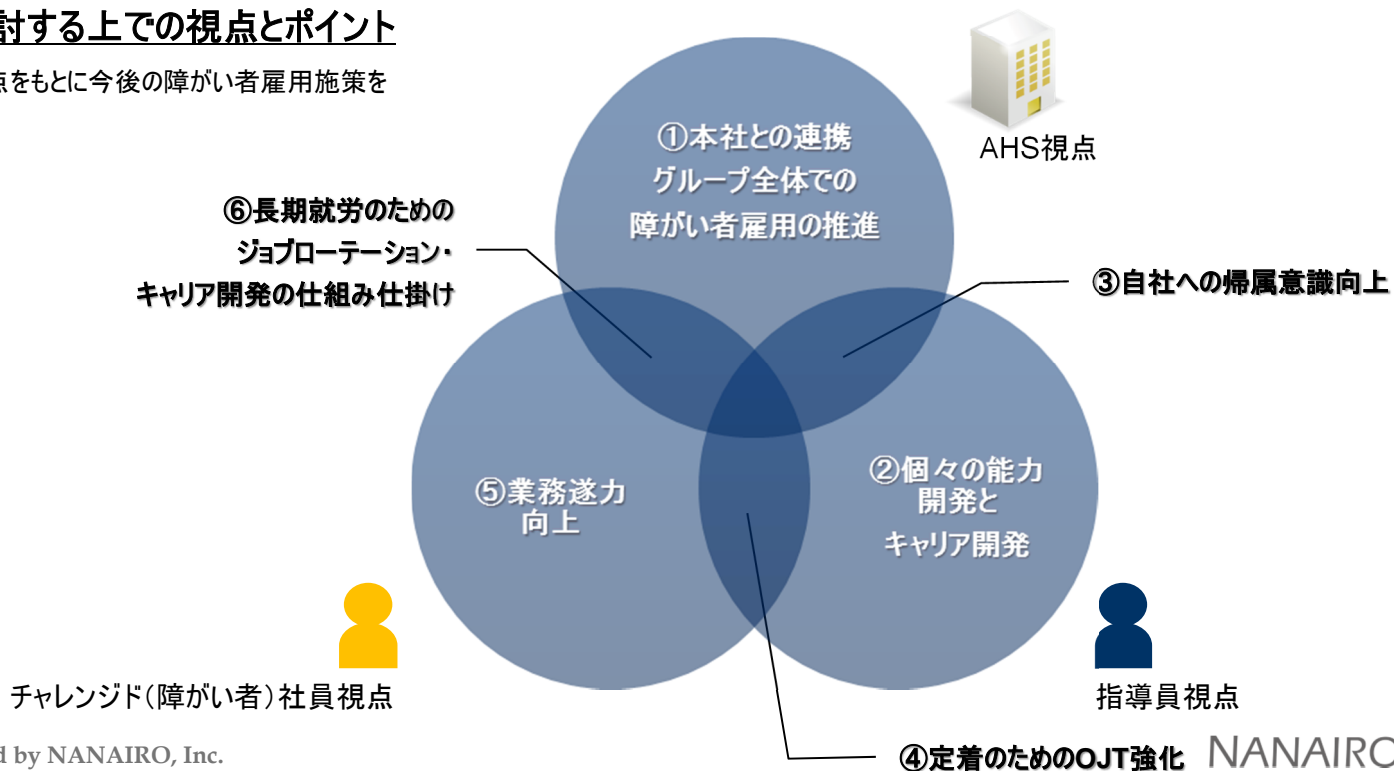
1. ビジネスにおける『正解のない』問題に対して、自分の頭で具体的 / 実行可能な『答え』を出す心構えを持つ
2. 『答え』を出すにあたって必要な知識・スキルを理解する
3. 「翌日から、使ってみたくなる」マインドに変化する

評価と今後の展開

- 本研修では、基本的な知識のスキルの理解と興味・関心を持つことを目的とした。アンケートの結果や講師所感からも本研修の目的は達成できた
- しかし、今後、本研修の対象者である指導員の方々の担う役割は非常に大きく、中長期的な視点での人材開発、能力開発が必要になる

今後の展開を検討する上での視点とポイント

- AHSでは、右記視点をもとに今後の障がい者雇用施策を検討している





本件に関するお問い合わせ



株式会社 NANAIRO

法人営業部 担当: 渡邊

電話: 03-5793-3126

E-mail: info@sevencolors.co.jp

会社概要

社名	株式会社NANAIRO (英文表記 NANAIRO, Inc)
URL	http://www.sevencolors.co.jp
所在地	〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1-19-19恵比寿ビジネスタワー7F
TEL	03-5793-3126
FAX	03-5793-3127
事業内容	1. 法人向けの障がい者雇用支援コンサルティング並びにアドバイザー業務(障がい者雇用方針・計画策定、人事・教育制度構築等) 2. 法人向け障がい者雇用に関する公開セミナーの企画・運営 3. 障がい者を中心とした人材紹介サービス 4. その他、障がい者の就労支援に関する法人向け、トータルソリューションサービスの提供
許可番号	有料職業紹介事業許可番号 13-ユ-307279
株主	株式会社セルム
代表取締役社長	白砂 祐幸
アドバイザー	秦 政